



占冠村長
田中正治

村 民の皆さん、新年明けましておめでとうございます。ご家族そろって健やかに新年をお迎えのことと、心から喜び申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症を乗り越え、元の生活や地域コミュニティ活動、社会経済活動を取り戻そうと頑張った1年ではなかったかと思っています。

私も、地域コミュニティや社会経済活動を取り戻そうと、住民生活優先の政策を進めてまいりました。

そうした中、本村の入込数が150万人となり、村内にも活気を感じることができるようになりましたが、近年の温暖化による環境整備として、公共施設や小中学校、保育所に冷房設備を設置しました。また、村民が一堂に会したスポーツレクリエーション大会、第50回を記念したふるさと祭りなど、地域コミュニティを取り戻す催事も行うことができました。

そして、占冠村には地酒がないとの思いから、メーブルシロップから発想したアカエゾマツの新芽とメーブル樹液を使ったクラフトジン、メーブルシロップとクラフトジンによるリキュール酒を造り、ふるさと祭りでお披露目し、多くの方に飲んでいただきました。占冠村を訪れる方には地元の酒として楽しんでもらいたいと思います。

迎える新年に向けては、村長就任2期目の最終年になりますので、村民の皆さんと約束をした政策実現や地域状況に合わせた政策実行のため、着実に前へ進めなければと考えております。

一方で、国外的には武力攻撃による国際紛争や米国の新大統領の就任など新たな国際情勢が生じていることや、国内的には円安の進行、原材料、燃料などの高騰による物価高が長期化の状況にあることなど、先が見通せない経済状況にあり、村内的にはまだまだ

多くの課題がありますので、新たな気持ちで村発展のため努力し、持続可能で誰もが報われる社会をめざすことが、私に課せられた責務であるとの思いで今年も頑張ります。

引き続き、村民の皆さんのご配慮とご支援により、誰もが安心して暮らせる村づくりを進めてまいります。そして、迎える新年が希望の持てる年になるよう期待をしております。

今年は「巳年」です。干支の動物に当てはめると蛇ですが、巳年に生まれた人は、蛇のように知恵深く、粘り強い性格を持つといわれています。蛇は古代から再生や永遠の象徴となっています。こうした意味から、巳年は新しい挑戦や変化に対して前向きな姿勢を示す年とも解釈されています。

蛇は、昔から豊穡神・天候神として信仰の対象とされてきました。脱皮をする蛇は「復活と再生」を連想し、不老

長寿や強い生命力につながる縁起のいい動物と考えられています。

2025年の「巳年」は、コロナ禍を乗り越えた今、復活と再生を果たし地域経済活動、住民活動が大きく「飛躍」し、私たちの生活が大きく「向上」する年になってほしいものです。

占冠村の基幹産業である農林業や観光産業の進展、生活の基盤である福祉や医療の充実、そして教育や子育て環境の充実など、迎える新年は着実に物事を進め、将来の成功へつながればと願うところで

村民の皆さんとともに、全力で村づくりに取り組んでまいりますのでご支援、ご協力をお願いいたします。

村民各位におかれましては、新年が希望に満ちた素晴らしい年でありますようお願い申し上げます。年頭のごあいさついたします。



占冠村会議長
児玉真澄

皆 さん、明けましておめでとうございます。占冠村議会を代表し、謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

村民各位におかれましては、新春を健やかにお迎えのことと心からお慶び申し上げます。また、旧年中は議会に對しまして温かいご支援、ご指導、そしてご叱声を賜りましたことに厚く御礼申し上げます。

昨年の広報1月号での年頭のあいさつで万葉集の最終歌を引用し、コロナから脱皮をし、今年こそは吉事が続くことを願ったところでありますが、残念ながら元日早々にあの能登半島地震が発生し、多くの尊い生命が犠牲となり、そして1年を迎えたこの時期においても避難継続を余儀なくされておられる方もいらっしゃいます。犠牲となられた方々に深く哀悼の意を表すとともに被災された住民の皆さまには心からお見舞い申し上げます。我々は報道の減少と

ともにこの災害に対する意識が薄れ、ともすれば忘れがちになりますが、決して風化させることなく身近にも起きうることを、常に頭に刻み付けておく必要があると思います。

自然災害におきましては、今や全世界的な傾向でありますが、温室効果ガス、中でも二酸化炭素の増加により、昨年も猛暑が続く、住民の皆さんの生活や農作物等に多大の影響を及ぼしました。村内においてもクーラーを設置されたご家庭も多いと認識しておりますが、本年も同様の状況に至るものと考えられますので、くれぐれも熱中症にはご注意ください。よろしくお願いいたします。

現在、全国の地方議会においては、議会の活性化を図るということから、さまざまな取り組みが議会改革の名の下に行われております。

管内の諸議会におきましても、議員報酬の見直しをはじ

め、パソコンの貸与・議場への持ち込み、また、議会の映像中継等への取り組みが行われております。先進といわれる議会の真似事では意味がありませんが、当議会におきましても、時代に遅れることなく、即した対応は進めていく必要はあると感じていますので、議員間協議を通して一歩ずつでも前進したい、かように考えております。

また、議会の活性化事業の一環として継続しております村内中学生・後期課程生とのコミュニティ・スクール議会も昨年で7回目を迎え、当初の目的でもありました、より議会というものを知ってもらふことと、中学生らしい感性で村づくりを考えてもらうことから「模擬議会」として生徒が一般質問を行い、各議員が答弁をする形として開催いたしました。生徒が質問内容を取りまとめ、議場において本番さながらに質問、答弁を行いました。子どもたちの意

見を聞く貴重な場であり、さらに議会を知ってもらう絶好の機会でもありますので、学校側とも結果を共有し、引き続き取り組みができればと考えております。

村政において山積している課題は多岐にわたり、その一つ一つに取り組んでいかなければなりません。こうした中、我々議員個々においてもさらに研さんに努め、資質の向上を図るとともに、託された役割として、村民の福祉の向上および村政の発展に寄与することが責務と考えております。

どうか本年も議会に対し、さらなるご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、本年が希望に満ちた幸多き年となりますことを祈念申し上げます。新年のごあいさついたします。